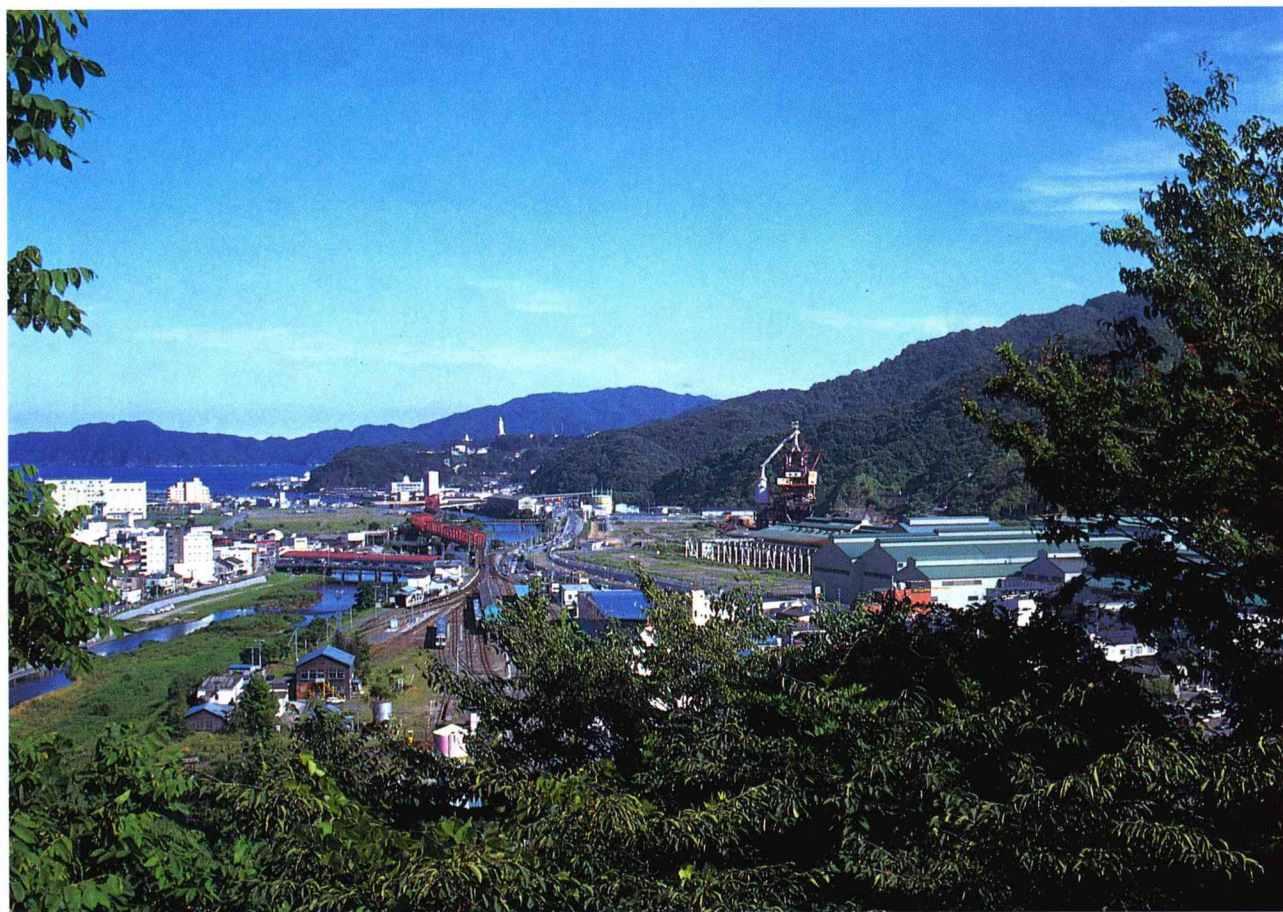


鉄の絶景 Steel Landscape.



釜石駅付近の様子

鉄都の鉄 岩手

12月1日「鉄の記念日」の発祥を岩手県釜石市に追う、
今回のスチールランドスケープ。

「鉄都」として、漁業と観光の町として歩みをつづける同市の「現在」と「過去」にスポットをあてる。

「鉄都」から漁業と観光の町へ、変化をつづける釜石

「東京―横浜」間につづいて「大阪―神戸」間、そして日本で三番目に開通した鉄道が「釜石―大橋」間だったから、この釜石は東北地方における鉄道発祥の地ということになる。当時、この鉄道が人気名所となったのはいうまでもない。人気の機関車は「義経号」や「弁慶号」、これら「丘蒸気」を一目見るために沿道は賑わった。泊まりがけで出向く人もあったほどだという。しかし、この鉄道も元来は一般旅客のためのものではなかった。その名も「釜石鉱山鉄道」、大橋鉱山の鉱石を釜石まで運ぶための鉄道、つまり名実ともに「鉄の道」だった。開通は明治13年、東北本線が上野から盛岡まで延びるより、10年もはやい敷設だったから、当時のこの鉄道の重要性も推して知るべしである。

釜石の駅へ降り立つと、まず目の前に新日本製鐵釜石製鉄所の広大な敷地が広がる。町の繁華街までは、ここからバスで5分も移動しなければならない。まさに釜石駅は製鉄のための駅であったということを、改めて思い知らされる。車で中心街へと移動する途中、橋の上に造られたマーケットの脇を通る。日本で唯一の橋上市場。世界でも、ここより他にはフィレンツェにあるだけだという。海産物から衣料品まで、生活に必要なものはたいてい手に入る市民の百貨店であり、観光客にとっては記念撮影のための絶好のポイントであるとともに、お土産の物色に最適の場所でもある。

釜石といえば鉄、そして海産物。三陸沿岸漁業の基地として栄えてきたこの町は、海の幸がことさら旨い。季節によってさまざまなバリエーションの味覚が楽しめる。また港からは観光船も発着していて、クルーズ途中で見られる三貫島は、あの「ひょっこりひょうたん島」のモデルになった島だとか。作者の井上ひさし氏は、ここで一時期を過ごした。また、小高い丘の上に建てられた「鉄の歴史館」も観光のポイントだ。たたら製鉄から、鉄の未来まで幅広い視野から展示されていて、マルチスクリーンの映像も迫力がある。

岩手県釜石市。見所は多く、海産物も旨い。この町もまた、多くの地方都市と同じように、新しい未来像に向けて、古い殻から脱皮しようと試みをつづけているように見える。輝かしい鉄の歴史と美しい自然が共存する観光の町として生まれ変わろうとしている。



大島高任により高炉が築かれたのは、現在の場所よりも山深く入った釜石市橋野の地。記念碑や説明板が、訪れる人々に当時の様子を伝える



高炉跡の記念碑



一番高炉の跡。説明板には高さ8メートルであったと記されている。大橋高炉とも呼ばれ、ASM InternationalからHistorical Landmarkの指定を受けている

近代製鉄の産声が、ここ釜石から

幕末。黒船の来襲でまず幕府が打った手は、大砲による沿岸防備だった。大砲鑄造のための実験が日本各地でなされた。佐賀、鹿児島、伊豆韮山……。これらの場所で西欧式の反射炉がつくられ、鑄砲製造が試みられる。こうした中、大島高任が水戸において、ある程度の成功を収めた。彼は南部藩医の長男として盛岡で生まれ、江戸に出て蘭学を、そして長崎で西洋砲術と製鉄法を学んだ。その後、水戸藩に呼ばれて反射炉を築き、安政元年（1854年）に大砲の鑄造に成功する。

ところが、この大砲は亀裂が入りやすかった。材料として用いられたのは出雲砂鉄だったが、どうもそこに問題があった。すぐれた磁鉄鉱が必要だ。そこで、高任は釜石に着目した。釜石には高品質な磁鉄鉱がある。18世紀初頭に発見され、貴重な鉄鉱であるという理由で幕府によって発掘が停止されたままになっていたものだ。しかし、それを製錬して製鉄を行なうため

には、従来の方法では至難の技。高炉による方法を採用するしかない……。そこでさっそく、高任は釜石における高炉の建設に着手した。

安政4年（1857年）の12月1日（旧暦）、初出鉄のための火入れが行なわれた。この日を記念して、現在の「鉄の記念日」が定められた。まさにその火入れの瞬間、日本の近代製鉄は試作の時代を終え、本格的な操業の産声を上げたのだ。しかし、それは小さな産声だった。なにしろ、近代製鉄がわが国に根づくまで、その後数十年を要したのだから。近代製鉄の発展には、長く険しい道程が待っていた……。

あらゆる産業には、誕生の瞬間があり、それが発展し、連綿とつづいていく歴史がある。かつて近代製鉄が誕生した釜石は、長い年月を経て、いま新しい歴史を刻みはじめている。観光の町もまたよい。高炉の名残は、さまざまな施設跡地に、そして鉄の歴史の偉大な記録にとどめられていくだろう。